

# かけ橋

## 今年度の交流及び 共同学習

今号では、今年度行った交流及び共同学習の中から、障害理解授業や居住地校交流について紹介します。また、先日開催した高等学校特別支援隊研修会の内容も掲載しています。

### 障害理解授業～淳城南小学校と湖北小学校での取組について～

11月に能代山本地区区の小学校2校で障害理解授業を行いました。淳城南小学校2年生は、自分の地域に障害のある人が暮らしていることを知り、居住地校交流では、地域の仲間として、一緒に活動しました。また湖北小学校3年生は、体験活動を通して、相手の気持ちに合わせる経験をしたり、仲良くなるためのポイントを聞いたりしました。その後に行われた居住地校交流では、相手がどんな気持ちから行動しているのかを察し、声をかけるなど、障害理解授業で学んだことが、さっそく行動として表れていました。「一人一人の理解が、みんなが暮らしやすい地域になっていく」と感じた障害理解授業・居住地校交流となりました。



淳城南小での様子



湖北小での様子

### 今年度の居住地校交流について～向能代小学校6年生での取組について～

向能代小学校6年生との居住地校交流では、体育科の授業でボッチャを行いました。今年度はパラリンピックが行われたこともあり、どの児童も興味をもって取り組む姿が見られました。本校児童は、居住地校交流を毎年経験しており、久々の再会に最初は緊張気味でしたが、グループの友達とすぐに打ち解けて活動することができました。外出先で本児に明るく声を掛けてくれるなど、同じ地域で過ごす友達が増えていることを保護者も喜んでいきます。



居住地校交流は、  
＜特別支援学校の子どもたちにとって＞  
自分が住んでいる地域で人間関係を広げ、豊かに暮らしていくために地域の同世代の子どもたちと活動を共にし、交流を深めていく。  
＜小中学校等の子どもたちにとって＞  
地域の仲間として特別支援学校の子どもたちと関わりながら障害に対する理解を深めていくことができます。  
詳しくは、各校に配付されている「居住地校交流ガイドブック第2版」をぜひご覧ください。



## 高等学校の特別支援教育～能代山本地区高等学校特別支援隊研修会より

1月12日に県立能代科学技術高等学校を会場に行われた能代山本地区高等学校特別支援隊研修会では、高等学校の特別支援教育について実践紹介がありました。

### 能代高等学校定時制 実践紹介より

- ・校内の特別支援体制
- ・生徒理解につながる出身中学校からの申し送り、入学前面談、中学校連絡協議会
- ・事例紹介～支援のキーパーソン、実際の取組と生徒の変容

### 能代科学技術高等学校 実践紹介より

- ・配慮を要する生徒の把握と指導について  
～情報共有、状況把握表（記述と項目チェックによる）  
～本人の思いと支援の方向の検討  
例：失敗したくない→やり方を示す、ゴールを示す
- ・進路選択時に直面する課題について

今回の研修会は、高等学校の先生方で情報を共有することができただけでなく、ご参加いただいた中学校の先生方にとっては、配慮を要する生徒の進路を考える上で、高等学校の情報を得る機会となりました。高等学校で様々な取組が行われていますが、学校ごとに状況が異なりますので、高校入学後の支援、高校入試の際の配慮申請が必要な場合は、早めに高等学校に問い合わせてみてはいかがでしょうか。



教えて!

専門監③

### 子どもが「その気になる」関わり方

子どもの気になる言動を「叱る」「言い聞かせる」など、子どもを思い通りに動かそうとする強い指示や威圧的な態度は、子どもに反抗的な思いを抱かせてしまうことがあります。子どもの胸の内は、こんな感じかもしれません。

- 「自分の意見は聞いてもらえない」
- 「どうせ信じてもらえない」
- 「どうせできないって思われてる」
- 「言われすぎてやる気が出ない」
- 「勝手に、親（教師）にやらされる」
- 「やりたいことは、させてもらえない」



子どもが納得できないまま、無理な努力を求めるのではなく、子どもの思いをくみ取って、その気にさせるためには、支援者側の関わり方を改めることの方が大切だと考えます。たとえば、こんな場面では、どのような言葉をかけたら、子どもはその気になるのでしょうか。

教師：「宿題、出てないよ」

子ども：「用事があって、やる時間がなかったの・・・」



- ① 「注意と叱責」による関わり方  
教師：「期限までに出すように言ったはずだ！」
- ② 「反論と説諭」による関わり方  
教師：「その用事は宿題より大事なはずがない」「まず宿題をやらなきゃいけないだろ！」
- ③ 「受容と共感」による関わり方 教師：「そうか、それじゃ仕方ないね」
- ④ 「肯定的フィードバック（小栗正幸：特別支援教育ネット代表）」による関わり方  
教師：「宿題のことを気にしていた（やる気があった）のは、大切なことだよ」

いかがでしょうか。④「肯定的フィードバック」を行うことで、子どもとの関係悪化を防ぎ、子どもの動機付けを高めることができるのではないのでしょうか。心がけてみましょう。

特別支援教育に関わる情報提供や相談等、お気軽にお問合せください。

教頭：仲山智 教育専門監：小笠原英紀 地域支援部主任：船山真生

TEL 0185-55-0691 FAX 0185-55-0681

ホームページ <https://noshiroshien.ed.jp>

E-mail [noshiro-s@akita-pref.ed.jp](mailto:noshiro-s@akita-pref.ed.jp)